

無事にカエル

西原町内の3児童館で活動するファミリークラブ会員の母親たちが、町立4小学校の新生の児童のために手作りのお守り(386個)をプレゼントしました。

お守りは子どもたちの健全育成と交通安全を祈願したもので、児童が「無事におうちへ帰ってくることを願い、カエルのイラストがデザインされています。」



プレゼントのようす

わったー まちの話題

ぼくの鯉のぼりが泳いでいる

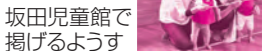
第9回手づくり鯉のぼり掲揚式(西原町社会福祉協議会主催、新川善昭会長)が、4月27日に西原町中央公民館駐車場で開催されました。

さわふじ保育園や西原南幼稚園など6園の園児が参加し、力を合わせて大きな鯉のぼりを掲げました。また、園児がつくった小さな鯉のぼりも駐車場全体に掲げられ、それを見た園児たちは「僕の鯉のぼりが泳いでいる」などと嬉しそうにしゃべっていました。

4月は町内各地で鯉のぼりが掲げられ、力強く泳ぐようすが見られました。



中央公民館



坂田児童館で掲げるようす

パパならではの読み聞かせ

「パパさん読み聞かせ活動」が、4月24日に西原東小学校で日曜授業参観に合わせて行われました。昨年に引き続き参加した方もいれば、はじめて参加する方もいましたが、始まる前はみな様に緊張しているようでした。

3年3組に読み聞かせを行った佐藤新さんは、早口言葉の絵本を使って児童の心をぐっと惹きつけた後、「いつだってともだち」の題名がつけられた絵本を声の抑揚をつけたり、体全体を動かすなどして、子どもたちに読み聞かせていました。



「梅の香り」に魅了されて

第14回梅の香りうた遊び大会(「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会・小那覇自治会主催)が、4月23日に小那覇児童公園で開催されました。この催しは、名曲「梅の香り」の作曲家である故新川嘉徳氏(字小那覇出身)を敬い、偲ぶことを目的としています。

全国から応募のあった26組から選ばれた、喜屋武栄さん(字安室)他15名が「梅の香り」を表現力にあふれた歌声と演奏で披露しました。大勢の観客が見守る中、14歳の仲地美音さん(宜野湾市出身)が大賞を受賞しました。

喜屋武さん



仲地さん

高校生 史跡をめぐる

西原高校1年生が、5月6日に西原町内の史跡を巡るスタンプラリー形式の遠足を行いました。この催しは、生徒の自主性・協調性・リーダー性を養うことを目的としています。

ニシバル歴史の会による史跡の説明を受けた後、史跡を巡る箇所や順番は各グループの話し合いで決め、ノロ殿内や棚原比嘉家の土帝君、西原の塔、内閣御殿などを巡りました。西原の塔では戦没者への追悼の意を込め合掌するようすがあり、また内閣御殿では琉球国王となる金丸の当時の生活を思い浮かべていました。



土帝君

ウワーフル

工業資格で日本

新垣賢悟さん(浦添工業高校卒、現・琉球大学1年、写真左)が、工業系の資格や競技会の成績などに点数をつけ表彰するジュニアマイスター顕彰制度において、全国で1人だけが選ばれる経済産業大臣賞を受賞しました。これは沖縄県から3年ぶりの快挙です。

新垣さんは「受賞できてとても嬉しいです。資格した取得を、教師になつて後輩育成にいかしたいです」と語りました。上間町長は「受賞は日々の努力の賜物だと思えます。すばらしい人材を育てる使命感を持って、今後ががんばってください」と激励しました。



作品販売で若者支援

NPO法人西原町人づくり支援の会(新川武雄理事長)が主催する「第19回チャリティー展示即売会」が4月15日から3日間、サンエー西原シティで開催されました。当会は、西原町を中心とした才能と意欲ある若者を支援することを目的としており、収益金から図書寄贈やスポーツ活動などの奨励金贈呈を行っています。

西原町文化協会の会員や、趣旨に賛同した芸術家などの陶芸やガラス、書道、絵画、手工芸品、写真など数多くの作品が並びました。来場者は丁寧な作られた作品の出来栄に見入っていました。



シーサー君が児童を守る

県内で各種イベント等を行っている「あんまーこうこう」が、イベントの収益金で作成した県警のシンボルマーク「シーサー君」の交通安全パネルを、4月25日に西原町内の4小学校に寄贈しました。「シーサー君」の寄贈はこれまで県内各地で続けてきて、今回で70基になります。

また、シーサー君の側には県警が募集した標語の入賞作品が書かれています。寄贈した代表の仲村康浩さん(写真・右から2番目)は「ドライパーが気づきやすく、児童にハイタッチしてもらおうなど親しまれ、交通安全につながれば幸いです」と語りました。



寄贈のようす